

第49回衆議院議員選挙の取り組みを終えて

～組合員・家族の皆さまへ～

2021年10月31日、第49回衆議院議員選挙が投開票されました。私たちは日本輸送サービス労働組合連合会（以下、JTSU）議員懇談会から4名の推薦候補と6名の支持候補を擁立し、必勝に向けて取り組んできました。結果は、推薦候補者の鈴木庸介氏、福島伸享氏の当選、残念ながら木村たけつか氏と長友よしひろ氏の惜敗でした。また支持候補者も3名当選、3名惜敗でした。この間、投票日まで数多くの取り組みと、この衆院選を注目して頂いたすべての組合員と家族の皆さまに心から感謝申し上げます。

今回の衆院選の大きな特徴は、自・公連立政権に委ね続けるのか、野党勢力に政権を託すのかを問う政権選択選挙でした。そして、任期満了日以降の投票は現行憲法下では初となり、内閣発足から衆議院解散まで10日間、解散から投開票日まで17日間という戦後最短となる異例の日程で行われました。

私たちJTSUは、コロナ禍で明らかになった「エッセンシャルワーカー」の価値向上と待遇改善や、常磐線全線開通政策から明確になった「持続可能なエネルギー政策」の実現、「脱成長」から「成熟社会」へ向けて、格差是正と公正・平等な社会保障を目指し、さらに自・公政権にNO！自民党改憲草案にNO！失われた8年をすべての仲間と連帯して切り拓こうと取り組んできました。そのことがJTSU労働政策「グリーンジョブ2028労働ビジョン」の定着につながり実現に向けていくからです。このコロナ禍で気づいたことは、「成長社会から成熟社会」への転換なくして、持続可能な社会システムの構築はあり得ないという事です。一方、菅政権は任期半ばで岸田政権に変わりました。しかし、岸田首相は「成長から分配の好循環」を掲げ、憲法改正への意欲も示している事からすれば、前政権の政策と何ら変わりません。そのようなことから、JTSUとして「反自民、反維新」を掲げて臨んできました。

今回の衆議院選挙の投票率は55.93%と前回より2.31%（前回53.68%）上昇しましたが、戦後3番目の低投票率となりました。そのような中、衆院選では初めて野党は候補者の調整をして一本化した選挙となり野党共闘の選挙区217選挙区と期待が高まりました。結果は、自公で139勝、野党共闘で62勝となり、自公は－15議席、立憲－14議席、共産－2議席となりました。それにより維新が＋30議席となりました。そのような事から、自民党への不満・批判票を与党補完勢力である維新が吸収した選挙であったと言えます。また、従来と変わらず野党一本化できず混戦した選挙区は72選挙区あり、その中では自公が59勝、野党5党は6勝という結果から見ると、全体として野党共闘は一定程度成果を上げたと言えます。JTSU推薦候補者に限って言えば、野党共闘は大きな力になりました。

しかし、それに水を差す形で、結果として野党共闘に不満を述べ有権者を分断した連合の責任は重いと言わざるを得ません。

私たちは、今回JTSUとして初めてとなる国政選挙でJTSU議員懇談会から2名の衆議院議員を誕生させたことは、全ての組合員の財産となり成果と言えます。そして、この衆院選の取り組みを通じて連帯の輪も大きく広がりました。今後も力強く政治と労働組合の両輪で政策実現、労働条件向上に向けて組合員と家族の負託に応えていきます。そのために、さらに奮闘していくことをお約束し、お礼に代えさせていただきます。

2021年 11月5日
日本輸送サービス労働組合連合会